

アルミ エッジ

No.191

2020 SPRING
JAPAN ALUMINIUM
ASSOCIATION

特集 美しいアルミステーションナリー

- デザイナーの発想と高い金属加工技術から生まれたアルミステーションナリー
- プロが愛用。高精度な製図用アルミ製筆記用具

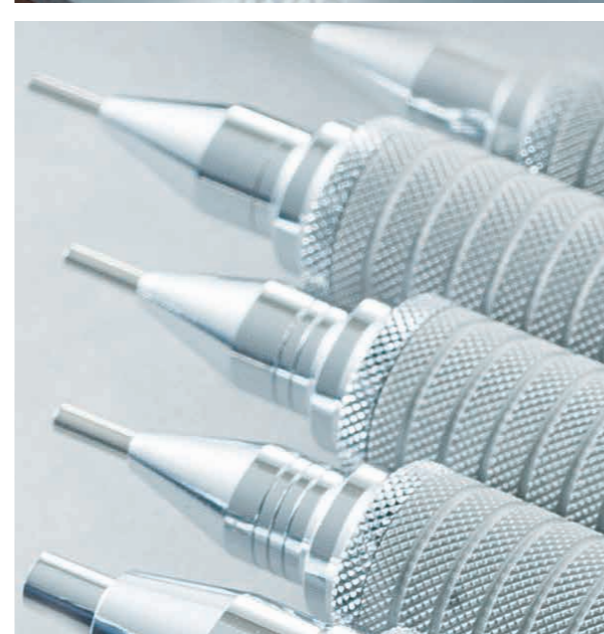
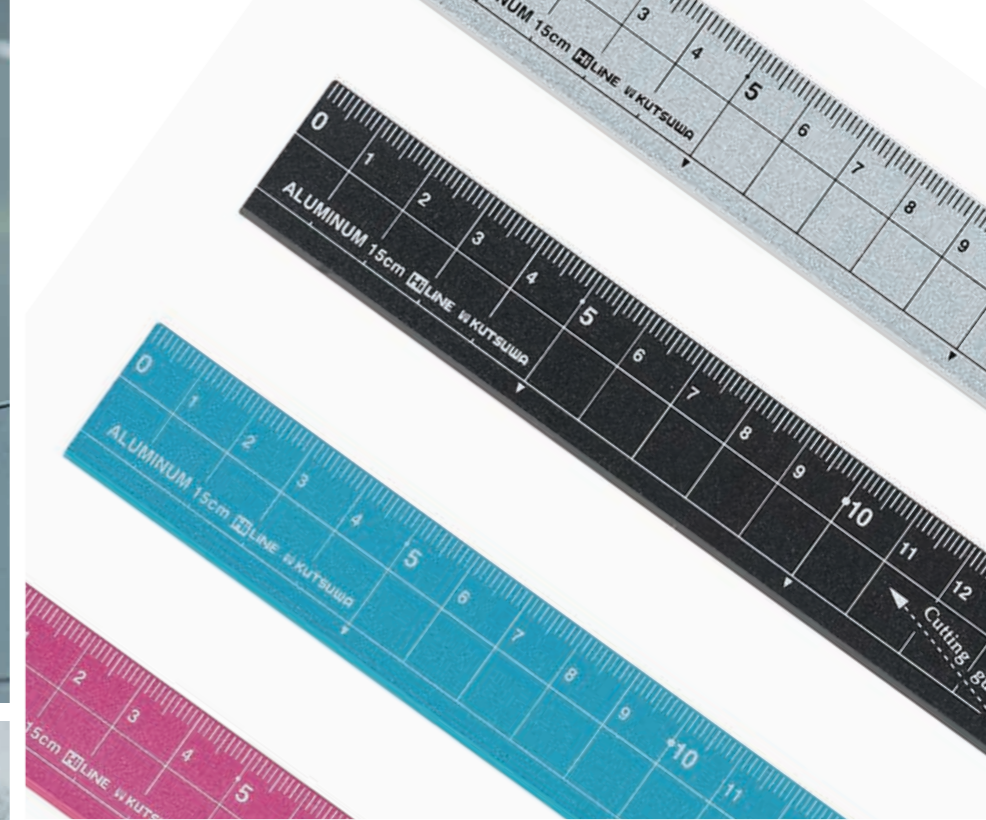
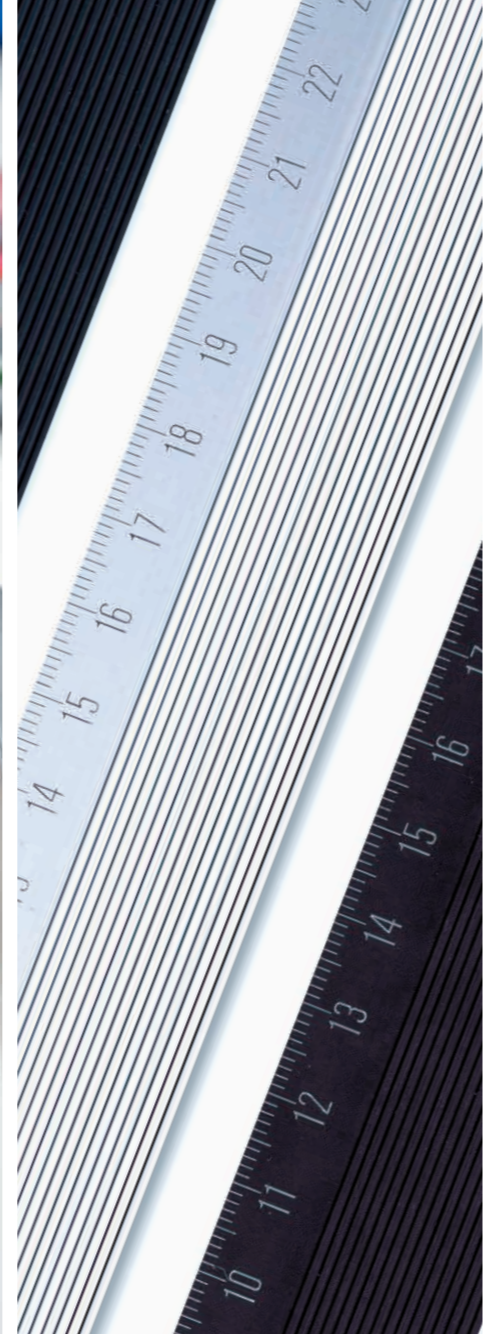


[アルミニウムの風景] 川に建つ巨大モニュメント

[趣味の逸品] ネイビーチェア

[アルミニウムの系譜] 5000系 Al-Mg系合金

[アルミコレクション] アルミ車両



特集

美しい

アルミステーショナリー



筆箱や道具箱を開けたとき、お気に入りの文房具があると、心躍り、やる気が出てきます。手にしっくりなじみ、軽くて長時間作業しても疲れず、洗練されたフォルムは飽きがこない。そんな美しいステーショナリーにアルミニウムはよく使用されています。すぐれたアルミニウムの特性を活かしてつくられた数々のアイテム。今こそじっくり見極めて、自分ぴったりのお気に入りを探してみてもいいかもしれません。



デザイナーの発想と 高い金属加工技術から生まれた アルミステーションナリー

日本のすぐれた金属加工技術と著名なデザイナーとのコラボレーションにより、新しいステーションナリーが誕生しています。アルミニウムの特長を生かした製品は、そのスタイリッシュなデザインで多くの人々を魅了しています。



技術力をアピールするため、 新たな発想で製品を開発

金属加工の一大産業地として知られている新潟県の燕三条。12年前、この地で長年にわたり切削技術を主とした金属加工メーカーを中心にプロジェクトはスタートしました。

プロデュースを担うのはプロダクト

デザイナーの秋田道夫氏で、最初に発表されたPrimarioというブランドシリーズも秋田氏のデザインによるものです。書類トレーやペンスタンド、テープカッターなど、デスクの上に統一感を持たせてコーディネートできるこのシリーズは高い評価を受けました。その後アルミニウムを中心にしたステーションナリー「ALIGN LINE」(アラインラ

イン、デザイナーは江口海里氏)シリーズができ上がりました。

ルーペが GERMAN DESIGN AWARD 最優秀賞受賞!

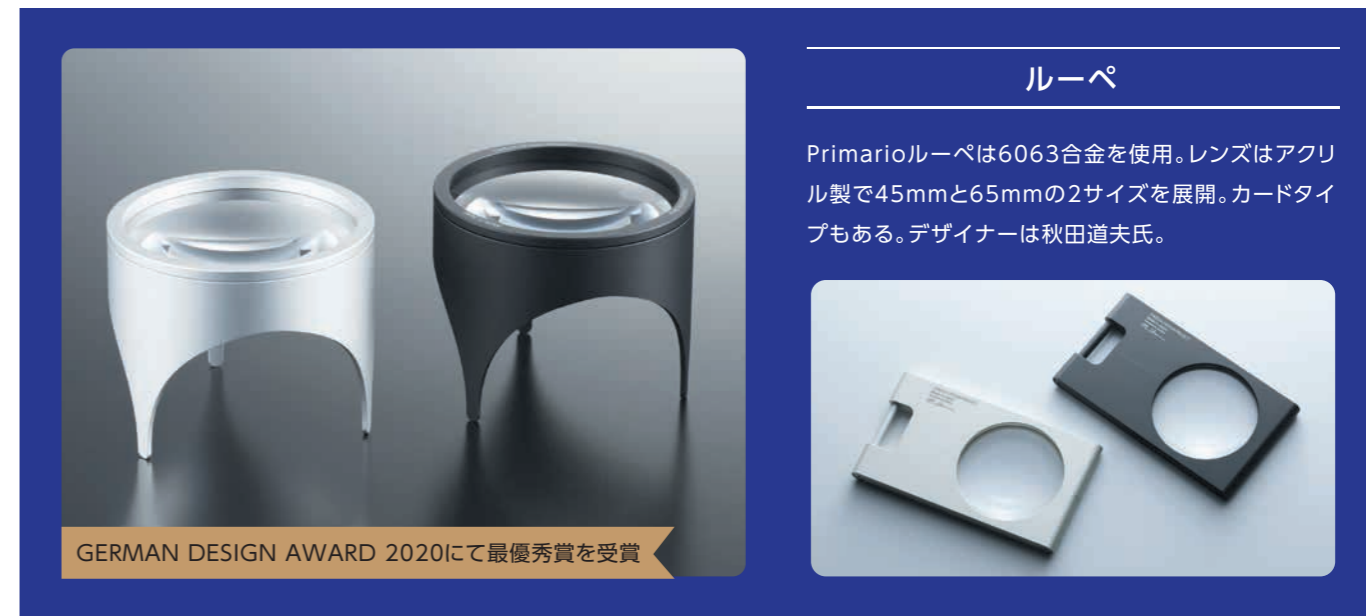
2015年に発売されたアルミニウムメタルメジャー(P7参照)は、プロジェ

表現の豊かさや温かみが アルミニウムの魅力です

もともと当社は建設機械や半導体関連の部品の加工を手掛けてきましたが、自社の技術、そして地元の技術をもさらにアピールしていければと、タケダデザインプロジェクトをスタートさせました。さまざまな金属を扱っていますが、アルミニウムに着目した理由はまずアルマイト加工により多彩な色を出せるところでした。ALIGN LINEシリーズではモノトーンで統一することになりましたが、例えばブラストをかけてアルマイト加工することでマット感を出すなどの表現が可能です。ほかにも、触ると少し熱が伝わっていくところに温かみや柔さを感じるなど、ステンレスとはまた違った魅力があります。今、このプロジェクトではステーションナリーだけではなく、カトラリーなども少しずつつくり始めました。あらゆるものが創作テーマとなるため、今後は「切削技術や使用されている加工機械からどのようなものがデザインできるか」と考えていくと、どんどんアイデアが広がるのではないかと考えています。



タケダデザインプロジェクト事業部代表
株式会社 高地 雅之 さん



ルーペ

Primarioルーペは6063合金を使用。レンズはアクリル製で45mmと65mmの2サイズを展開。カードタイプもある。デザイナーは秋田道夫氏。

クトを代表するアイテム。このメジャーは国内外で高く評価され、数々のデザイン賞を受賞しました。なかでも、国際的に権威のあるデザイン賞であるGERMAN DESIGN AWARD(ジャーマン・デザイン・アワード)の優秀賞受賞で大きく注目されました。そして、これに次いで国際的に評価されたのがルーペです。削り出しのワンパーツで

成るこのルーペは見た目はシンプルですが加工は難しく、アルミパイプを内側から切削して形をつくり、さらにレンズが入る部分も切削で仕上げています。少しでもズレがあるとレンズのガタつきや落下の原因となるため、レンズの厚みを考慮しながらの作業には高度な切削技術が必要となります。

特徴となるのが、大きな3か所の

アーチです。通常の置くタイプのルーペはレンズを囲う部分が壁になっているため上部からしか光が入らないうえに影ができ、見たい対象物が暗くなります。しかし、このルーペはアーチ部分から光が目一杯取り込まれるため自然光だけでも相当な明るさを確保でき、見やすくなっています。また、アーチは指が入るほど大きく、例えばここからピ



CALEN-BAR

シンプルゆえにどんなシチュエーションにも溶け込むデザイン。ダイヤル部分には、回した時に独特の感触が得られるアメリカ製のロータリースイッチが内蔵されている。デザインは廣田征雅氏。



ンセットを入れてレンズの下で細かい作業をすることも可能です。持ち運びも軽くて使いやすく、その機能性と美しいデザインで発売以来人気を博してきました。そして2020年GERMAN DESIGN AWARDにて最優秀賞受賞を成し遂げました。

毎日設定することで 愛着が湧くCALEN-BAR

日めくりカレンダーをイメージしてつくられたアルミ製のCALEN-BARは、燕市が開催した「若monoアイデアコンペティション燕」の受賞作品から商品化されたアイテムで、4つのシリコンリングを動かして月と日付を表示し、曜日は

回転ダイヤルで設定します。毎日1枚ずつ紙をめくるといった動作は残したまま、使い捨てではなく、永遠に使えるカレンダーを実現させました。

ポイントとなるダイヤル部分は、回すとちょうど金庫のダイヤルのようにカチカチという感触を得られます。シンプルながらも、遊び心のある動作や毎日手にするアルミニウムの質感により愛着が深められていくアイテムです。パー部分は長くなればなるほど、切削するとブレが生じやすく高度な技術を要します。さらに、このボディにレーザーマーキングで日付を入れる加工は、ワークスペースの関係で3分割で加工しなければいけなくその位置を正確に繋ぎ合わせる必要があり、シンプルながらも非常に手

間がかかっています。

新しいものづくりの世界は、さらに燕三条市内の他の工場が持つ加工技術や、ガラスや木、陶器といった他素材と組み合わせることで進化していく可能性を秘めています。今後、日本全国のものづくりの産地と産地の繋がりで生まれる、新たなステーションナリーの登場も期待できそうです。

GERMAN DESIGN AWARD
ドイツ連邦議会後援により設立されたThe German Design Councilが主宰する賞。国際的なデザイン賞を受賞した商品の中から、さらに優秀なものがノミネートされ、その審査の厳しさから「賞の中の賞」とも呼ばれている。

新潟・燕三条で育まれた 高い金属加工技術

新潟県のほぼ中心に位置する「燕三条」エリアは、古くから金属を加工する鍛冶産業が盛んであったことから、現在では、刃物や洋食器などの金属加工品の一大産地として知られています。燕三条で作られる金属製品は、その機能性や品質の良さから、世界的にも高い評価を受けています。最近ではその高い技術を生かそうという取り組みが活発化しています。



ユーティリティスタンド

ALIGN LINEのALIGNには「まっすぐに揃える」という意味があり、緻密に計算されたデザインを精巧に一つずつ削り出してつくことで、使用者が客観的に規律正しく見られるように仕上げている。



アルミニウムメタルメジャー

タケダデザインプロジェクトの代表的なアイテム。フチ部分についている3カ所の穴を使い、さまざまなスタイルで身につけることができる。デザイナーは山口英文氏。GERMAN DESIGN AWARDにて優秀賞を受賞。



Column

70年におよぶロングセラー 色を正確にうつすアルミ製パレット

小さい頃、絵の具のパレットはどんなものを使っていたか。白いプラスチック製のものが多かったかもしれませんが。グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞したパレットは銀色に輝くアルミ製のパレットです。なんとこのアルミ製パレットは70年以上も販売され続けてきたというから驚きです。

開発したのは大正6(1917)年創業、100年以上の歴史を持つ銀座の画材店「月光荘」で、店の名前は歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻が名付けました。創業時、同店には多くの芸術家が集まり、サロンのような役割を果たしていました。創業者である橋本兵藏氏は芸術家からの要望を受けてさまざまな画材道具を開発し、例えば輸入に頼っていた絵の具を、国産材だけで製造したのも同店が初となります。そしてアルミ製パレットも創業者が開発したこだわりの道具です。1945年、パリの色彩学会が色を最も正確に判断するために猫柳色(シルバーグレー)のパレットの上で色検査をしたことから、パレットにアルミニウムを採用。何度も試作を繰り返し、純度が99.5%の1050合金がパレットに最適であることがわかり、これを選びました。形状は、陸(絵の具を出すところ)と海(絵の具を溶くところ)のバラ



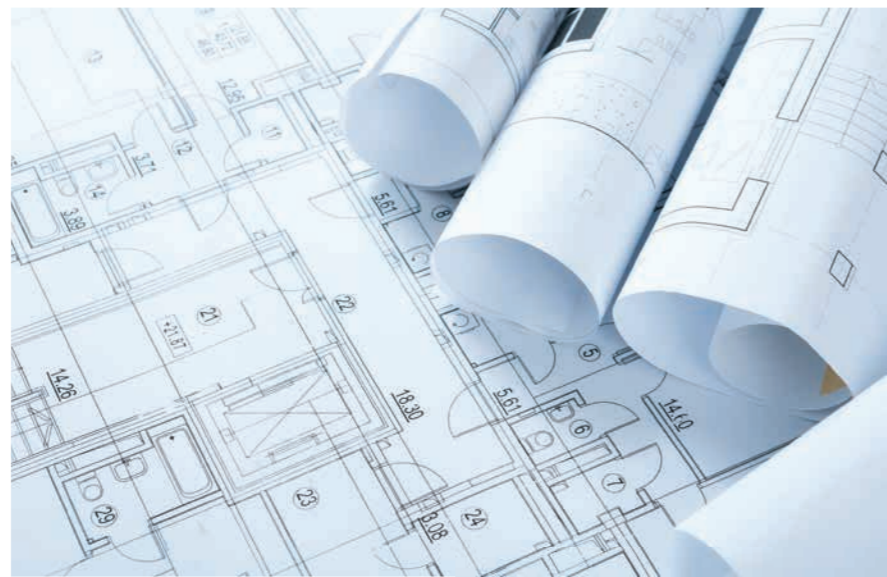
ンスを良くして、海を広くとることで色を作りやすくしています。それぞれの四隅は適度な丸みがあり絵の具がたまることなく使用でき、また洗い流しやすくなっています。

著名な芸術家らがこのアルミ製パレットを愛用したことから、現在では世界中から購入を求める人が後を絶ちません。また「小さい頃から本物を」という考えで教材に採用する学校もあるといいます。こだわり抜いて作られたアルミ製パレットは、時を超えて今、その価値を理解する人が大きく広がっているのです。



月光荘の店内に
看板商品として
陳列されている！

取材協力：(株)月光荘画材店



プロが愛用。 高精度な製図用 アルミ製筆記用具

文房具の素材にはさまざまなものが使われていますが、なかでも製図用筆記用具やスケールでは、丈夫で使いやすいアルミ製のが人気です。プロをはじめとして、こだわりのあるユーザーに愛用されている製図用文房具メーカーに、その魅力をうかがいました。

高度なアルミ加工技術が生かされた製図用シャープペンシル

パソコン等の利用が進み、私たちは以前に比べて文字を書くことが少なくなりました。しかし、ちょっとしたメモをとることもあれば、アナログ手帳でスケジュールを管理する人も多く、用具が必需品であることは今も変わりません。そんな筆記用具で世界的に名を馳せるドイツの老舗文具メーカー「ステッ

ドラー」の日本法人ではいくつかの製品を日本向けに開発しており、アルミ製の製図用シャープペンシルもそのひとつ。日本の教材用として決められたスペックを守りながら、日本人の好みに合うようつくられたこの製品は、当初、シャープペンの軸に樹脂を使用していました。その後、グレードアップ版としてアルミニウムを使用したオールメタルモデルが登場しました。

アルミニウムを採用した理由は、その軽さと美しさ。表面をアルマイト加

工することで、素材自体が非常に強くなり、汚れやキズが付きにくくなることも評価されました。また、製図の仕事では長時間使い続ける場合も多く、樹脂製の軸だと手の温度で熱くなり途中で置いて休ませることもあったりしますが、アルミ製の軸は熱がこもらず快適に使い続けられるといえます。プロに愛用されている製図用シャープペンシルですが、もちろん普段の使用にも適しているので、製図以外の用途でも多く使われています。

製図用シャープペンシル

使用アルミ合金は、上軸が6000系合金、それ以外は2000系合金と使い分けている。

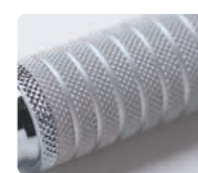


口金先は長めの4mm

通常の定規厚が約3mmのため、角にひっかけることなくスムーズに線が引けると同時に、視野が広く保てる。

滑り止め加工

使う人によっては下部分を持つ場合もあり、口金ギリギリまで滑り止め加工を施している。



ボディバランス

低重心により安定したバランスで書けるため、長時間使用しても手が疲れにくい。

完成度の高さと品質の良さで、長く愛用される製品に



企画部 企画課
玉澤 杏珠さん
スタッドラー 日本(株)
たまきわ あんじゅ

当社で製造している筆記用具は、ある程度単純な曲線と直線との組み合わせでフォルムを構成していますが、どのようなフォルムでもきれいに仕上がるのがアルミニウムの魅力ではないでしょうか。また、色をつけても、素地のシルバーの色を生かしてもイメージ通りの美しい外観ができます。この製図用シャープペンシルは1990年発売以来基本スタイルがほとんど変わっていません。これからもブランドイメージを大切にしながら、頻繁にモデルチェンジする必要のない、完成度の高さ、品質の良さで、長く愛用される製品を開発していきたいと思っています。

このシャープペンシルは小さいながらも職人の技術が随所に駆使されています。たとえばグリップ滑り止め部分に施されたローレット加工と呼ばれる凸凹加工は、深さを微妙に調整しながら時間をかけて完成させています。グリップの滑り止め部分は長年使用しているうちに少しずつ削れて手にほどよくなじみ、さらに使い心地が良くなります。そのため、不具合が生じて買い替えを拒み、修理をしながら使い続けるユーザーも少なくありません。一

度使い始めると手放せなくなる魅力は、アルミニウムの特性と職人の技が生きているからこそだといえるでしょう。

アルミニウムとレーザー加工でメモリの正確性が向上

製図用三角スケールもプロに愛用されているアイテムです。三角スケールは、さまざまな縮尺メモリが1つのスケールに搭載されたもの。例えば、大き

な建築物を設計するにあたり、1/200で図面を作成するといった場合などに役立ちます。

三角スケールの素材は、昔は竹や樹脂が使われていましたが、安定供給の難しさや耐久性などの問題で時代の流れとともにアルミニウムへとシフトしてきました。同社では当初アルミニウムを芯にして、その上にセルロイドの板を貼付けたスタイルでしたが、その後、丈夫なオールアルミの三角スケールに変えることで、反りや歪みな

三角スケール

三角スケールは全6面それぞれに違う縮尺のメモリが入っている。使用されているのは6063合金の圧延材。近年では黒いスケールも登場。

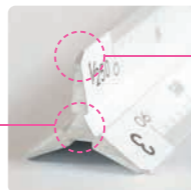


照明の明るさが十分でなかった頃には「見にく



い」と不評で、製作されていなかったブラックタイプのスケールも現在は主流に。黒地にハッキリとした白の印字はかえって見やすいという意見も多い。

中心の空間を埋めることで音の響きを抑え、メモリ面も読み取りやすくなった。また、全体的にスリムになり収納も便利に。



スケールの角部分は落下の際に潰れたり、あるいは手を切るなどの危険性も考慮し、一つ一つ職人の手作業で面取り加工が行われている。

鉛筆ホルダー

鉛筆が短くなったときに使う昔ながらの補助軸を「いかにグールに見せられるか」と考えて製作されたペンシルホルダーは、製図用シャープペンシルのデザインが踏襲されています。鉛筆ならではの筆記感をそのままに、アルミホルダーが書きやすさをサポートした人気のアイテムです。



製図シャープペンシル同様に、グリップには滑り止め加工。また低重心のボディのため書きやすい。

振り子式構造

出したい芯の表示を上向きにしてノックすると、その芯が出てくる。



多機能ペン

ボールペンとシャープペンシルが使える多機能ペンも日本で開発されたアルミボディの筆記用具です。15年以上にわたるロングセラーの人気の理由は洗練されたデザインと美しいカラーバリエーション。通常多機能ペンはノックが複数ついています。この多機能ペンはひとつのノックで3種あるいは4種類の芯を出せるためスマートな外観が特徴です。

どの変形が起きにくくなりました。以前は中心部分に空間がありましたが、そのために落としたり、ぶついたりすると高い金属音が大きく響いていました。その問題を解決すべく空間を埋めたところ、音が抑えられたと同時に面がなだらかになり、メモリが読み取りやすくなるという良い効果もあり

ました。また、メモリ部分はレーザーで加工しており、6μmという非常に小さな寸法公差を実現。アルミニウムはレーザーとの相性がよく、今後さらに寸法公差を縮めて、精度を高めていく挑戦が続いています。三角スケールは用途により縮尺を変

更することができ、例えばプラモデル向けに開発した三角スケールも人気を博しています。本来は理工系の分野で多用されてきた三角スケールですが、これからはアイデア次第でホビー業界をはじめさまざまな分野での活躍が期待できそうです。

Column

機能性の高いアルミ製定規がぞくぞくと登場

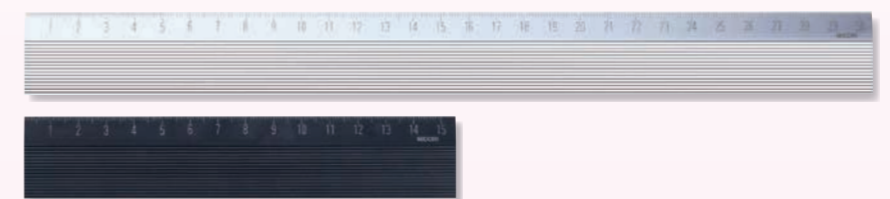
文房具は使いやすさを重視して、手頃な価格のアイテムをいろいろ試してみたくもなります。最近、文房具メーカーから新しい定規がぞくぞくと発売されていて、なかでも数百円程度の手頃な価格で機能性にすぐれたアルミ製の定規が登場しています。

2019年グッドデザイン・ベスト100に選ばれた「ノンスリップアルミ定規」は、直線を引く時は定規の中心を押さえると、裏面に付いたゴムストッパーが働いてしっかりと固定し、ズレることがありません。それだけでなく、たとえば平行線を何本も引く時など、次の位置まで動かす時は、定規の下側(メモリが刻まれていない方)を押さえると、ストッパーが浮き、スーッと軽く動くようになります。動く/固定のオンオフが簡単なのがポイントで、軽くて丈夫なアルミ製のため、長時間の作業でも指の負担が少なく快適に使用できると評判です。

定規は線をひく以外にも、紙を切るときに利用する場合もありますが、「紙がキレイに切れるアルミ定規」はその商品名のとおり、45度の傾斜加工がされているため定規で紙をおさえ、紙を引っ張りあげるだけで簡単に紙が綺麗に切れるのが特長です。雑誌のページや用紙の不要部分の切り取りに便利で、手を切らないよう端を丸めているので安全に使うことができます。アルミニウムを採用することで、紙を何回切っても破損しにくい耐久性を持ちます。

アルミ製の定規は他の素材に比べて強度が高く、非常に軽いのが特徴的。持ち運びが容易だったり、長時間の作業に使用しても疲れにくいという特長があります。またエッジがシャープなため、紙をまっすぐ切りたい時などにも向いています。最近では商品名に「アルミ」と付けるアイテムが目立ち、その実力が広く認められつつあります。

ノンスリップアルミ定規



移動するときはメモリが刻まれていない方を押さえると、ストッパーが浮き、スーッと軽く動くようになる。

カッターを使用したり直線をひく時はピタッと固定される

少しだけ浮く!



資料提供:(株)デザインフィル

紙がキレイに切れるアルミ定規



A4用紙がいっしょに切れる30cmとペンケースに入る15cmの2サイズある。切る方向を示したカッティングガイドが記してある。

携帯に便利な折りたたみ式



資料提供:クツワ(株)



ベルリンの歴史が刻まれたシュプレー川

ドイツ・ベルリンの市街地を流れる「シュプレー川」。川沿いには国会議事堂やさまざまな博物館、美術館、テレビ塔など、著名な施設が並び、市民の憩いの場となっている。そんな美しいベルリンの街並みを水面からゆったりと眺めることができることから、シュプレー川を航行する遊覧船は今、観光客に人気が高い。

かつて冷戦時代、シュプレー川を航行していたのは旧東ドイツの警備艇であった。第二次世界大戦後、ベルリンは分割され、西ベルリンを資本主義である米・英・仏が、東ベルリンを社会主義であるソ連が統治した。東西の経済格差が大きくなるにつれ、自由で豊かな西側へ、東側から亡命する人は後を絶たなかった。

これを防ぐために1961年、ベルリンは東西が壁で隔てられることとなった。そして市街地の中心を流れるシュプレー川も天然の要塞として、東西を分断する役割を果たした。シュプレー川には警備艇が巡りて厳しく取り締まったため、シュプレー川を渡ることは命がけであった。

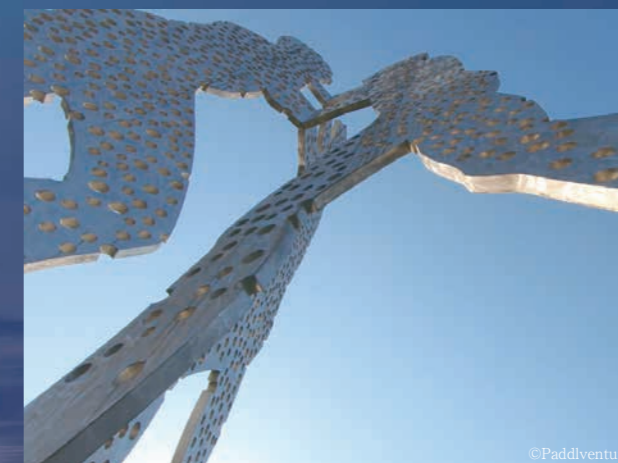
シュプレー川に出現した高さ30mにおよぶアルミ製モニュメント

月日が流れ、ベルリンの壁が崩壊し、東西ドイツが統一したのは1990年。ほどなくして、巨大なアルミニウムのモニュメントが川面に出現した。高さは30m、重さは45トンに及ぶ。これは米国の彫刻家ジョナサン・ポロフスキーの作品「Molecule Man」(分子人間)である。巨大な人物には無数に穴があけられ、これは人間の身体を構成する「分子」をイメージしている。ポロフスキーの言葉によると「私や、あなたも含めて、地球上にはいろいろな人種や、価値観、思考、信条の人間が暮らしている。しかし、そんな違いにこだわっているよりも、そもそも分子のレベルで見れば、あなたも私もだいたいまあ同じようなものじゃないですか」というメッセージが込められているという。

かつて東西分断の役割を担っていたシュプレー川に出現したアルミ製のモニュメント。ベルリン

という地がたどってきた歴史を知れば、無数に開けられた穴は意味を持ち、胸を打つ作品である。東西ドイツ統一から30年を経た現在、川に建つモニュメントは圧倒的な存在感を放ち、その姿

をカメラにおさめてSNSに投稿する人も多い。平和な世に再び人々の争いが起こらないように、巨大なアルミ製モニュメントは歴史を今に伝えているのである。



無数にあげられた穴は人間の「分子」をイメージしている。違いがあったとしても、分子レベルで見れば人はみな同じというメッセージが込められている。

MOLECULE MAN

Aluminum monument on the river

川に建つ巨大モニュメント



CHAIR チェア



精緻を極めた ネイビーチェア

世の中には、使うほどに手放せなくなるというモノがある。たとえば手になじんだ筆記用具など。そして、そういったモノはたいがい機能性が高くシンプルなデザインだったりする。その方が飽きることなく、いつまでも使い続けることができるからだろう。アメリカのペンシルヴァニアにあるemeco（エメコ）社で製造される「ネイビーチェア」と呼ばれる椅子も、間違いなくこうした部類のモノだ。この椅子は第二次世界大戦時、アメリカ海軍が潜水艦や船上で使用するために開発された。必要とされた条件は、海水や潮風にふれても錆びない耐食性、揺れる海上でも快適に座れる安定性、さらに軽さと頑丈さ。この全てを満たすよう開発されたチェアは、現在に至るまでそのデザイン、材料、製造工程が変わっていない。

ネイビーチェアの材料はアルミニウムを採用し、1脚にかける製造工程は77工程もある。材料の切断、成形、溶接、熱処理、アルマイト加工など、全工程がひとつの工場で行われ、1点ずつ熟練した職人により丁寧に作り上げられている。そして、ポリッシュ仕上げは1脚につき約8時間もの時間が費やされるという。また、リサイクル性にも優れ、使用されているアルミニウムは約80%が再生材料で、そのうち60%が飲料用アルミ缶から、40%が工場スクラップからのリサイクルとなっている。

アルミニウムの質感がダイレクトに伝わってくるネイビーチェアには、精緻を極めた美しさがある。デザイナーやクリエイター、建築家に支持されてきたこの椅子は、多くのレストランやカフェで採用されており、これからも時代を超えて愛されていくだろう。



(左写真)ネイビーチェアの座面の凹みは、ピンアップガールのモデル、ベティ・グレイブルのヒップラインに影響を受けてデザインされたといわれている。このポスターは、第二次世界大戦中に最も多くの場所で貼られていた。

(右写真)1脚にかける製造工程は77工程。開発当社から現代に至るまで変わっていない。

(取材・写真協力: Royal Furniture Collection Co., Ltd.)

アルミニウムの系譜

アルミ合金

5000系

Al-Mg系合金

いろいろな製品に使われるアルミニウムは、成分によって各種のアルミ合金に分類されます。アルミ板や押出材に使われるアルミ合金(展伸材用合金)の中から、代表的なものをピックアップして、特徴や用途を紹介します。

すぐれた強度、しかも溶接がしやすい

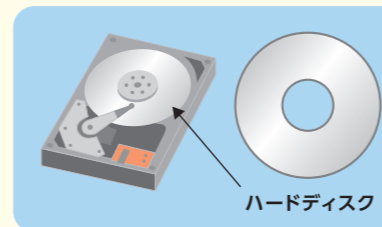
5000系合金に添加されている**主な成分はマグネシウム(Mg)**です。少し専門的になりますが、アルミ合金は、非熱処理合金(製造のまま熱処理を行わずに使われる合金)と、熱処理合金(焼き入れ、焼きもどしなどの熱処理を行って強度を高める合金)に大別されます。5000系は非熱処理合金に分類され、その中でも高い強度を誇る合金です。そのほか5000系合金の特長としては、溶接性や耐食性などが知られています。

代表的な合金である5052合金は、強度はアルミ合金の中では中程度ですが、私たちの身近な飲料缶のフタ材など、多くの製品に使われています。5052合金よりマグネシウムの添加量が多い5083合金は、**高い強度を持つうえに、溶接性にもすぐれています**。そのため溶接によって製品の形ができるようなもの、たとえば大きな球形のLNGタンクや、アルミ船の船体などに使われています。5000系合金は耐食性にすぐれているため、海浜地域の製品にも多く用いられます。

あまり知られていませんが、ドーナツ形をしたコンピュータのハードディスク基盤にも5000系合金が使われています。表面の平たん度が高く、大量のデータ記録を可能にしています。

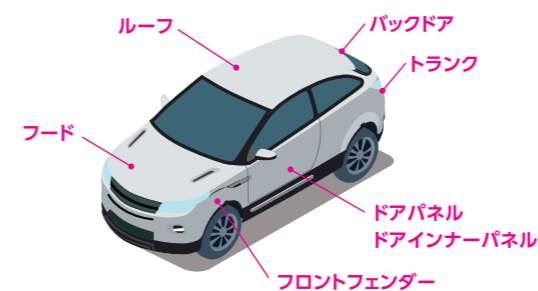


LNGタンク



ハードディスク

自動車ボディパネルでアルミ合金が使われる箇所



強さと美しさを兼ね備えた自動車ボディ

最近、自動車のボディパネルにアルミ合金が使われることが増えています。鉄に比べアルミ合金は軽量ですが、強度が低いという問題点がありました。そこで注目されるのが5000系合金です。強度や耐食性という特長に加え、自由なデザインを実現するための成形性にすぐれている点や、高級感のある表面品質が可能であることなどから、国内、海外の多くの自動車で、アルミ合金が採用されるようになってきました。環境にやさしい自動車を目指して、すぐれたアルミ合金への期待が高まっています。

アルミクイズ

5000系アルミ合金が使われるのは次のどれ?

- ① 自動車ボディパネル
- ② 飛行機機体
- ③ 住宅サッシ

アルミうちわ



冷やして使うと
ひんやり涼しい風が楽しめる!

5名様に
プレゼント

クイズの回答はハガキで、2020年5月末までに日本アルミニウム協会までお送りください。正解者の中から5名様にアルミうちわをお送りします。当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

表紙のこぼれ

美しいアルミステーションナリー

賢いフクロウは知性の象徴とされ、「森の賢者」や「学問の神様」と呼ばれたりします。知性の向上に欠かせない文房具。森の仲間が運びます。



表紙イラスト: あずみ虫(イラストレーター)
アルミ板でフォルムを描き、ペイントしていく独自の作風で注目を集める。素材の質感を活かした洗練された色づかいが特長。おもに書籍や広告などで活躍中。

アルミコレクション ALUMINIUM COLLECTION

日本各地で出会う アルミ車両



新幹線を始め、多くの高速鉄道にアルミ車両が使われていることはよく知られています。でも、私たちの身近な地下鉄や通勤電車などにも、特長あるアルミ車両がたくさん走っていることをご存じですか。今回は、地元の人々の生活の足として活躍する全国のアルミ車両をご紹介します。



札幌市営地下鉄 9000形

世界でも珍しい、ゴムタイヤが使われている地下鉄。地上高架を走るため、騒音を減らすための工夫です。

仙台市地下鉄 2000系

操舵台車を導入してなめらかな走行を実現。車両の前面には伊達政宗ゆかりの三日月のデザイン。

広島電鉄 5000系

広島市内を走る路面電車は、かわいらしいデザインと温かみのあるグリーンで人気があります。



西武鉄道 001系

何層もの塗装を重ね、風景に溶け込む車両が評判の愛称Laview(ラビュー)。アルミ板を球面に削り出した先頭デザインも魅力的。



ゆいレール 1000系

沖縄県のモノレール車両。音や振動が少なく排気ガスを発生しないエコな車両です。



神戸市営地下鉄 6000形

市民の投票で選ばれたグリーンの中体。車両番号には神戸市電時代から使用されている文字を引き継いでいます。



相模鉄道 20000系

エレガントなデザインと、ヨコハマネイビーブルーのアルミ車両。2022年度下期開業予定の相鉄・東急直通線用に開発。

(資料提供：札幌市交通局、仙台市交通局、西武鉄道(株)、相模鉄道(株)、神戸市交通局、広島電鉄(株)、沖縄都市モノレール(株))